

これまでを振り返る

阿部町長（以下、町長） まずは10月の庄内での展示飛行お疲れさまでした。

遠渡隊長（以下、遠渡） ありがとうございました。特に庄内空港に対する思い入れは強かったんで、上から見るとこういう景色なんだということを感じながら飛んでいた一方で、操縦のことも考えながらでしたので、そこまで景色を堪能している余裕はありませんでした。それでも、景色を見ないのもつらいなという気持ちもあり、どちらも両立できる

形を意識しながら飛行していました。結果として、無事に終えることができたので本当に良かったんです。

町長 庄内にいると、あまり航空自衛隊の活動を知る機会がなくて、これまではブルーインパルスに関心が高かったのに、あの展示飛行以来「また見たい」とか「航空祭を見てみたい」という方が多かったです。遠渡 私も最初はそうでした。（山形県内には神町駐屯地しかないことから）「自衛隊Ⅱ陸上自衛隊」というイメージが強かったのですが、航空自衛隊に入隊後は、ワールドワイ

ドなたくさんの仕事があるということを知りました。その広報活動を行うことが今の私たちの任務ですから、たくさんの人から関心を持ってもらえたということは、純粋にうれしい気持ちになりました。

町長 任期中のこれまでを振り返ると、2年目以降は新型コロナウイルスの影響で航空祭などの開催がなくなり、展示飛行の機会が少なくなっただけですが、どう感じていますか？
遠渡 私としては、そういった気持ちよりも、ブルーインパルスとして飛ぶこと自体が目標だったので、航

空祭がないからといってモチベーションが下がるといったことはありませんでした。純粋にパイロットとして飛んでいることが楽しいという感覚が強いですね。もちろん、たくさんのファンの方々の気持ちを考えると、航空祭を開催するに越したことはないのですが。

町長 そうした中でも、7月には東京2020オリンピックの開会式当日に展示飛行を行ったり、5月には山形市、10月には庄内で、地元山形の空を飛ぶ機会が2回もあったり、これはこれで貴重な経験だったのではないでしょうか？
遠渡 たまたま自分の任期中にそうした行事が重なっただけだと思いますが、本当に光栄です。その中でも、医療従事者等への敬意を示すために東京上空を飛んだ展示飛行（令和2年5月29日）は特に印象深いですね。あの時私が1番機の操縦資格を取ってから最初の任務でした。急遽飛行が決まり、事前の訓練も行っていない中、本番のみの飛行で無事に終わらせることができたということもあり、実はオリンピック・パラリンピックの時よりも印象に残っています。一方で、山形で2回飛べたということも夢のようなことで、これ以上ない経験だったと思います。



「夢を翔ける」

航空自衛隊第4航空団
第11飛行隊長
談 遠渡 祐樹



「夢を翔ける」

三川町長
対 阿部 誠



▲ブルーインパルスは日々訓練を続けている

何事もあきらめないで

町長 庄内での展示飛行の時、町では遠渡さんを応援するオリジナルのタオルを製作して、町の小・中学生に配布しました。展示飛行当日には小・中学生が学校のグラウンドでそのタオルを掲げて飛行を応援するというイベントを開催したのですが、これについてはご存じでしたか？
遠渡 当日後席に乗っていた名久井

2佐から「学校のグラウンドにたくさん人がいるよ」と教えてもらいまして、それでも、飛行のことに目を使いながらでしたので、本当は目

に焼き付けたかったのですが、あまりじっくり見ている余裕はなかったというのが正直なところでした。

町長 そうでしたか。これに関連して聞いてみたいことがあるのですが、今回製作したタオルや、遠渡隊長が写っている自衛隊の広報ポスターに書いているメッセージ「なりで自分さ向がってブレねてまっすぞー！」について、この言葉に込めた思いを教えてください。

遠渡 言葉のとおりではあるのですが、「こうなりたい」「あなりたい」と思わないと何も始まりません。私自身、小さい時はパイロットにな

りたいと思っていました。一時は気持ちがあきらめた時期もありました。それでも、結局はその夢をあきらめずにここまで来たという経過があります。夢も仕事もブレないことが大切で、これは大人になってからも同じですよ。周りから何を言われようとも、自分のやりたい道に向かってブレずにまっすぐ進むという気持ちを持ち続けるのが大事ということを、特に三川の小さいお子さんにも伝えることができたらうれしいですね。方言を使っているのも、より伝わりやすくなるようにという意味を込めています。

りたいたと思っていました。一時は気持ちがあきらめた時期もありました。それでも、結局はその夢をあきらめずにここまで来たという経過があります。夢も仕事もブレないことが大切で、これは大人になってからも同じですよ。周りから何を言われようとも、自分のやりたい道に向かってブレずにまっすぐ進むという気持ちを持ち続けるのが大事ということを、特に三川の小さいお子さんにも伝えることができたらうれしいですね。方言を使っているのも、より伝わりやすくなるようにという意味を込めています。

Profile

遠渡 祐樹
昭和54年生。三川中学校卒業後、酒田西高校、東京国際大学へ進学。大学卒業後、航空自衛隊に入隊。那覇基地（沖縄県）、百里基地（茨城県）などで戦闘機パイロットを経験後、平成31年4月第11飛行隊に着任。令和2年6月から現職。2等空佐。

町長 庄内での展示飛行の様子を見たところでは、三川の子どもたちにも十分伝わったと思いますよ。
遠渡 将来的にどんな職種に就こうとも、その気持ちを貫き通して、自分の夢や願いを叶えてほしいと思いますね。



▲松島基地第11飛行隊長室で（取材日：令和3年12月15日）